

みんなの ライフスキルタイムズ

ときどき発行 No.9 (2021.8.31)

J I Y D 東京都港区高輪 4-10-63-302

TEL 03-3440-3373 FAX 03-3440-4447 MAIL info@jiyd.org

https://lionsquest-japan.org/

実践編ワークショップ(※)では、参加者の皆さんのニーズに合わせた活動を実施していきます。教育現場の課題解決やライオンズクエストプログラムの活用など、そのときどきによって違う、さまざまな活動です。この夏に実施した、教育現場での活用について考えた活動を紹介します。同じ実践編でも、こんなにも違い、いろいろなことができる、実際に参加者がつくっていくワークショップです！

<実践編ワークショップ> 教育現場での 活用を考える！

(※)ワークショップ開催形式については、HPをご覧ください。

https://lionsquest-japan.org/ws/



「いじめ」をテーマとした 研究授業の取り組みのために！



〈2 活用できる授業を探す〉
まず、基本編ワークショップで行ったプログラムの教材を読み取る活動をふり取り、いじめに直接関連

〈1 共通理解を図る〉
グループ活動で、いじめるのはなぜ？、いじめられるのはなぜ？、いじめに対して教師ができることは？をブレインストーミングで考え、発表しました。

ワークショップに参加したことのある校長先生からの発案で、校内研修として基本編・実践編ワークショップが開催されました。実践編の最終目標は、『2学期に実施する授業を決定し、それに向けての取り組みを考える』でした。

この小学校では、毎年2学期に「いじめ」をテーマとして、全学年全クラスで研究授業を実施しているとのことでした。今回、ワーク

するのには単元3であることを全体で確認しました。その後、担当学年ごとのグループになって、各参考対象学年の巻の単元3の授業内容を吟味して、研究授業で実施する授業を決定。また、それまでにぜひ実施しておきたい授業をピックアップし、それをいつ行うかスケジュールを考え、これらを一枚の掲示物にまとめ、全体の場で発表しました。

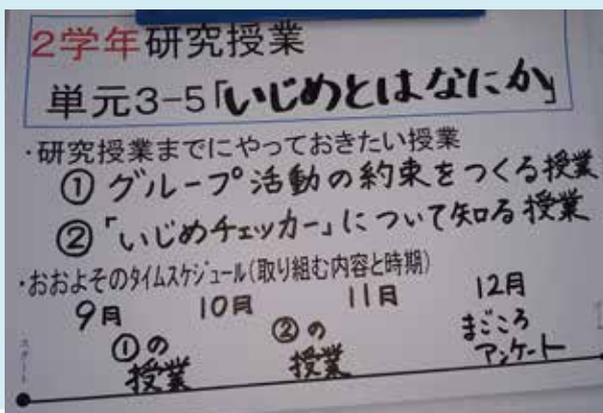
今回の実践編は、1つのテーマに基づいてプログラムの活用を考えるワークショップとなりました。共通理解をはかり、新しい知識を得て、練習し、ふり返り改善していく。その流れは、まさにプログラムの作りそのものです。また、グループ活動を通して考えていくのも、プログラムの特徴で、教師間の絆もより一層深まったようでした。先生方からは、「模擬授業を実施して、他学年からも意見をもらえたので、より良い形で自信を持って2学期の研究授業が実施できそうだ」との声が聞か

〈3 実際に練習してみる〉
各学年で研究授業で実施する授業を準備し、模擬授業をやってみました。発表会場は1～3年生と4～6年生の2つに分けて進行了ました。

この小学

この小学

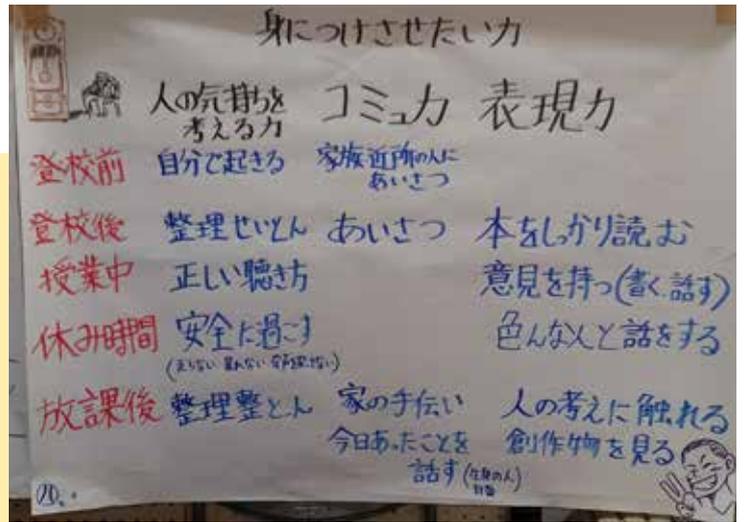
この小学



れました。このワークショップでの体験が今後の実践につながっていくことを期待します。
(認定講師・柴 咲子)

素敵な行動マトリクス

『子どもについて考えよう！子どもに身につけさせたい力』の活動の発展形として実施しました。『身につけさせたい力』は先生の願いであつて、その願いを子どもたちに抽象的でなく、具体的にわかりやすく発信することはとても大切なことだと思つています。子どもたちに、「みんなはね、こんな行動や言動、友だちとの関わりをすれば先生が願つていける力が身につくんだよ」とメッセージを送ること、子どもたちにとって「わかった！これならできそう！」と思えることが自



信につながると思つています。ライオンズクエストプログラムの特徴である『わかつて、できる』というコンセプトにフィットした活動だと考えています。

この『行動マトリクス』の考え方は、PBIS (Positive Behavioral Interventions and Supports) ・ポジティブな行動介入と支援という考え方によるもので、ライオンズクエストプログラムでも提唱している『前向きな価値と行動』と同じものだと思つています。具体的には、グループごとに『理想的なクラス像』のイメージ化から始まり、そのようなクラスにするために子どもたちに身につけさせたい力を共有し、ポスターづくり。その後今回のマトリクス作成。グループごとに模造紙にマトリクス表(横はつけさせたい力、縦は学校生活の様々な場面)に行動や言動、関わりを考えていきました。

参加者からは、「わかりやすく子どもにも伝えやすい」、「今後の学級指導に活かしたい」との声が多く聞かれました。実際の教育現場について皆で考えていくことは、ニーズに合わせて日常に変化をもたらすきっかけになると思つています。

(認定講師候補・寺西 勉)

学校で活用されるライオンズクエストを目指して

今日、学校現場の多忙さが話題になっていますが、これは先生の仕事が多くて大変だということ以外に、指導内容において多くのことが求められており、年間の標準授業時数の中で多くのことを指導しなくてはならないという忙しさがあります。その結果、ライオンズクエストのようなものを実施する時間が捻出できないという声がかかります。

そこで、ライオンズクエストという教育プログラムの一部を、教科、行事、部活動などの既存の教育活動と組み合わせることで、学校教育の充実とライオンズクエストの導入ということが同時にできるのではないかと考え、この夏のワークショップ実践編で、これらについて考える活動を実施してみました。

参加者の皆さんは、ほぼ一日かけ、合唱祭やボランティア活動の指導計画をライオンズクエストを含む形で作成し、模擬授業まで行いました。事後では、「こういう形ならば、学校でも実践できそうだ。」という感想が語られました。

緊急事態宣言の発出などで、この夏、私は実践編を1回しかできなかったのですが、この企画について評価することは早計かと思つています。今後継続的に改善を加えながら実施し、学校への普及の手掛かりになればと考えているところです。

(認定講師・寺本 一人)

奉仕Week ~人の役に立つための力をつける5時間~

朝	月	火	水	木	金
奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け
	1. 事前調査 〈道志〉 地域・ボランティアを 見よう。	2. 準備と計画 〈国語〉 インタビュー練習 質問をしよう。	3. 実行 〈総合〉 ① 地域の美化運動 地域の方と共に ② 地域の方の インタビュー 奉仕活動・発表	4. 振り返り 〈宿題〉の完成を 目指して自分時間	5. 発表とお祝い 〈総合〉 ・新聞発表 ・お礼状の仕上げ
奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け	奉仕週間 呼び掛け